

【事例5】アサガオのたねをまこう。

指導要領	内容(7) 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。
単元の目標	植物を継続的に栽培する活動を通して、それらの育つ場所、成長の様子に関心をもって働きかけ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、植物に親しみをもち、大切にしようとするができるようにする。
本時のねらい	花を咲かせたいという思いをもち、幼児期や日常の経験を思い起こしたり、友達と話したりしながら種まきに取り組むとともに、植物に心を寄せ、大切に育てていこうとすることができるようにする。

キーワード：見通し 集団であるよさ

子供の動き

授業者の動き

授業者の手立て



T:今日はいよいよ…

子供：アサガオの種をまく！

その通り！
やることは4つあるよ。

- ①鉢に土を入れる。
 - ②選んだ種をまく。
 - ③鉢を置く場所を決めて、鉢を設置する。
 - ④使った道具を片付ける。
- ①と②については場所を指定して、子供が交差しないようにする。

手順が伝わりやすいよう、はっきり明示し、どの子供も見通しをもって活動を進められるようにする。

A:ふかふかのお布団みたいな土にするよ。その方が芽が出るとき出やすいよ。
B:シャベルを使うといいんだよね。
C:鉢の線のところまで土を入れるんだよ。プランターにも線があったよ。
D:私が育てるアサガオ、楽しみだな。名前を付けたいな。

T:幼稚園等では、種をまいたことがあるかな？

○個々の子供の様子を見ながら、これまでの生活経験について問うことで、子供が経験を思い出しながら、「できそう」とイメージをもって取り組めるようにする。また、子供同士の話をつなぎながら、経験のない子供が他の子供の様子を見本として取り組むことができるようにする。

E:どの種にしようかな？1番大きい種にしてみよう。
F:色の濃い種にしよう。お母さんが色の濃いキュウリを選んで買っていたから。
G:ぼくのお母さんは形のいい野菜を選んでいたよ。だから、種の形もよく見るよ。

○種のまき方について、教科書等に記載があるが、経験したことがある子供に話したり実演したりする時間を設けることで、学び合う風土を育てる。
○どの種を選ぶかについては、子供の思いを十分に聞きながら、どんな花が咲きそうか、どのくらい大きく伸びそうかなど、予想を一緒に楽しみたい。

A:芽が出るところをみたいな。だから、いつでも見に行けるように教室のベランダに置こう。
D:いつもお話しして、アサガオとお友達になりたい。だから、教室の窓のところに置くよ。
H:大きくなるには太陽や雨が大事なんだよ。だから、築山のてっぺんに置くよ。

T:学校のどこで育てたら、アサガオは素敵な花を咲かせてくれるかな？

○場所を決められない場合は、みんな話を参考に決めてもよいことを事前に伝えておくことで、「決められないかもしれない」という子供の不安感を軽減する。
○鉢の場所を変えたいときは、途中で変更できることを伝えておくことで、「一人で育てられないかもしれない」という子供の不安感を軽減する。場所を変更したときは、その理由を尋ね、子供の思いが言語化されるようにする。